



## 新年のごあいさつ

長岡市身体障害者団体連合会  
会長 藤田 芳雄

令和に入り、初めての新年を迎えることとなりました。皆様、本年もどうぞ長岡市身体障害者団体連合会をよろしくお願い申

し上げます。

今年は言うまでもなく、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年。1964年10月、アジアで初めてとなる東京オリンピックが開催されました。

その日は抜けるような青空が広がり、その中を初めて、白い車体の新幹線が走り抜けたのを、つい昨日のことのように思い出します。

あれから56年、福祉施策や労働環境、教育や権利意識など、私たち障害者をとりまく環境も大きく変わりました。それとともに社会参加の機会も増え、国民の意識もかつての庇護の対象からパラレルへ、共に生きる立場へと大きく変化してきました。

そのような中、昭和45年（1970年）9月に発足



した私たち身体障害者団体連合会は本年、設立50周年という、大きな節目の年を迎える事となりました。

この年、人類の進歩と調和を歌った大阪万国博が開かれ、初めての歩行者天国の実施、そして光化学スモッグが話題となった年でもあります。

まさにわが国の繁栄を象徴するかのような頃、本連合会は誕生し、当時の中越婦人会館で発足式が開かれたと聞いています。

そして現在、傘下の協議会は、いずれの協会も高齢化と会員減少の課題をかかえております。

今秋、10月18日には晴れて記念式典を予定しており、これを機に、まさに「ワンチーム」で、全組織が一丸となって新たな困難に立ち向かう決意です。

本年も皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 長岡身障連かわら版

【発行人】  
長岡市身体障害者団体連合会  
会長：藤田芳雄  
令和2年新年号



## 新年のごあいさつ

長岡市長 磯田 達伸

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

長岡市身体障害者団体連合会様におかれましては、市内の身体障害者団体をつなぐ重要な役割を担い、会員の福祉向上のため日々活動され、長岡市の障害福祉の向上に寄与されていることに心から敬意を表します。

恒例行事の「第五地区身体障害者スポーツ大会」は、参加者の親睦を図るとともに、工夫を凝らした競技により体力の保持と健康の増進を図る大切な機会となっています。皆様がいきいきと活動されていることを大変うれしく思います。

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。パラスポーツへの注目が高まる中、長岡市は長岡スポーツ協会と連携し、スポーツによる人づくりのガイドライン「NAGAOKA SPORT(スポーツ) Compass(コンパス)」を策定しました。本ガイドラインは、スポーツを取り巻く環境をより良いものにし、「まちの未来はひとつづくりにある」という「米百俵の精神」

をスポーツを通して具現化したいという願いを込めています。「ひとつづくり」の視点からスポーツによるまちづくりを推進し、健康で活力ある生活の実現を目指すとともに、障害のある人もない人もスポーツを楽しむことができる社会づくりに取り組んでまいります。

また、近年は法定障害者雇用率が引き上げられるなど、障害者の就労への関心が高まっています。長岡市では、障害者就労支援推進員を配置し、障害のある方一人ひとりの特性に合わせた企業とのマッチングの支援を行っているほか、市役所で障害者の実習を受け入れるなど、障害のある方の就労を促進するためのさまざまな取り組みを行っています。

障害者福祉のなお一層の向上を図るためには、行政のみならず、多くの方々の積極的な働きかけと社会参加が重要となります。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、長岡市身体障害者団体連合会のますますのご発展と、今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。





### 新年のごあいさつ

長岡市社会福祉協議会  
会長 本田史朗

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、御健勝で新年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

げます。

旧年中は、当協議会の運営ならびに事業活動に対しまして多大なる御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、昨年は、台風15号、19号をはじめとした大規模災害、痛ましい児童虐待事件など暗いニュースもありましたが、令和という新しい時代の幕開

け、そしてOne Teamというラグビー日本代表の活躍など、明るい話題も多い年でした。

そうした中、病気や障害の有無に関わらず誰もが安心して暮らし続ける社会の創造、いわゆる地域共生社会の実現は過去、そしてこれからも当協議会の大きな使命と認識しております。

東京オリンピック、パラリンピックが開催され障害という個性に社会の関心が高まる今年、貴会におかれましては、設立

50周年を迎えられると聞いております。今後も貴会と当協議会がOne

Teamとなり、地域共生社会の実現に向け取り組んで参りましょう！



### 被災者救援募金を寄附！

昨年11月24日(日)長岡市肢体障害者協会忘年会において、「台風19号被災者に対する救援募金」を募ったところ7,532円の温かい気持ちが寄せられました。

この募金は、12月2日に長岡市社会福祉協議会において、椋澤春雄会長から藤田社会福祉協議会

事務局長に「台風19号の被災者のために役立てていただきたい。」とお渡ししました。

藤田事務局長から「皆様の気持ちに沿った形で役立たせていただきます。」とのお言葉をいただきました。

肢体協会の皆様ありがとうございました。



### 視障協設立70周年記念 音響機器を寄贈！

昨年10月20日(日)に長岡視覚障害者福祉協会設立70周年記念式典において長岡市社会福祉協議会に寄贈した音響機器が12月初めにトモシアに配備されました。

この音響機器は、毎月第4土曜日にトモシア1階フリースペースで開催されている「トモシアお楽しみライブ」や各種演奏会などのイベントで活用されます。

お披露目は、12月22日(日)の「トモシアクリスマスファミリーコンサート」となりました。

当日は、1階のフリースペースにお客様がぎゅーしりと入り、琴の演奏、紙芝居、バイオリン演奏、独唱、みんなで歌おう、マジック、ポップス演奏、



バイオリン演奏の外川さん

男声合唱が披露され、寄贈された音響機器の効果がいかんなく発揮されました。今までの機器ではできなかった

音響効果の高い機器から流れる素晴らしいリズムに、参加した皆さんもうっとりされていました。

皆様もぜひ、「トモシアお楽しみライブ」に足を運んで、素晴らしい音色を楽しまれてはいかがでしょうか。

### 齋藤ひろみさん国民文化祭で特選受賞

第34回国民文化祭にいがた2019、第19回全国障害者芸術文化祭にいがた大会の「詩(ことば)フェスティバル」において、全国各地から応募作品数5,503点の中からジャンルごとの選者による審査の結果、短歌の部門で見事に長岡視覚障害者福祉協会の齋藤ひろみさんが特選を受賞されました。

昨年10月26日(土)柏崎市で行われた「詩(ことば)フェスティバル ～花火と良寛の地で～」において表彰されました。齋藤ひろみさんおめでとうございます。(右が特選の短歌です)

風合戦地絡めの  
凧を組衆が糸切れるまで  
土手駆けぬける  
(短歌の部 沖ななも選)

# オープン3周年「トモシア文化祭2019」

## トモシア 文化祭に参加して

長岡視覚障害者福祉協会 五十嵐 政男

今年は2回目の参加でした、昨年同様朝9時から展示品を持ち込み、所定の場所にボランティアの方と一緒に飾り付けを始め、なんとか10時までの開催時刻に間に合わせることができました。

会員は口出しできても、何も手伝うことができないことに焦りを感じながら、すばらしい飾り付けの作品展に仕上げてください、大変感謝しております。

今回、私は視覚に障害があってもパソコンが使えるソフトを搭載した、デモ機を持ち込み、朝から終了間近まで、デモンストレーションをやっておりました。

当日、パソコンについて尋ねてきた方は、新潟日報の新聞記者1名だけでした。

視覚に障害のある方が来場しなかったのか、それともただ個人的に展示担当者がパソコンを自分のために使っていると思われたのか。

この紙面を借りて、視覚障害者が使えるパソコンについてPRをさせていただきます。



視障協ブースの五十嵐さん

パソコンは誰もが使っているふつうの機器です。そこに音声アシストしてくれるソフトウェアをインストールすることで画面の文字を音声で読み取ることができます。

また、視覚障害者がわかりやすいように作られたアプリケーション・ソフトがあります。

これらを使って、インターネットや文章の作成、計算、メールのやりとり、読書、音楽を聞くことなどができます。

関心のある方は、長岡視覚障害者福祉協会、五十嵐（33-6844）に連絡をいただければ、詳しい説明をさせていただきます。

## さりげない“やさしさ”

長岡視覚障害者福祉協会 渡辺タカ

できた！やった！とあちこちから歓声が上がりました。でも私はまだできていません。

頭ではわかっているのに手が動きません。時間は静かに流れていきます。



ワークショップの様子  
クラフトバンド”クリスマス飾り”

11月1日「トモシア文化祭」が開催され、午後からクラフトバンドで“クリスマス飾り”を作る講座が開かれたのです。私はだんだん集中力がなくなりあきらめようかと思いはじめたとき、向かいに居られたTさんが丁寧に教えてくださり作品を完成させることができました。ご自分も作らなければならないのに私をサポートしてくださったTさんの“やさしさ”に強く心を打たれ、作品をそっとバックに入れました。

多目的ホールでは、バラエティに富んだステージ発表が行われました。紙芝居を聞いているうちに、おとぎの世界へ引き込まれていた私はバイオリンの演奏で現実に戻りました。“八木節”“お祭りマンボ”などの軽快な曲を聞き、いやなことでも忘れることができました。

作品展会場は、写真、パンフレットが多く、さみしく思いました。触れて楽しめる作品があった方がいいような気がしました、また、参加者同士の触れ合いの場があればもっと楽しかったのではないのでしょうか。例えば、ゲーム、ダンス、ミーティングなどはいかがでしょう？

「口は災いのもと」とよく言われます。言葉は人に勇気を与えることもあります、傷を付けることもあると思います。残りの人生、言葉を大切に過ごしていきたいと思うこの頃です。

「トモシア」スタッフの皆様、楽しい一日をありがとうございました！



# 「チョットひと言」～ハート・カー～

私は市内在住の視覚障害者で、70歳を過ぎています。

つい最近、ハート・カーの申し込みをしたところ、その日は運転ボランティアが少なく派遣できないと言われ、利用をあきらめざるを得なかったことがあります。

ハート・カー事業は、長岡市が重度身体障害者の移動支援施策の一つとして平成10年（1998年）に始まり、運転はボランティアさんが行っています。



また、長岡市社会福祉協議会に委託して運行されている事業と聞いています。

出発当初は、県内どこへでも出かけることができ、普段遠出ができない障害者でも一日たっぷり色々なところへ出かけることができました。

しかし何年かして、市町村合併が実施され、行けるところが市内に限定されましたが、それでも買い物へ行ったり、イベントに参加したり、通院に利用したりと移動が困難な私たちにとって、とてもありがたい事業です。

今まで、利用を断られることはほとんどなかったのですが、最近、私以外にも頻繁にあるとのこと。

社会福祉協議会の担当者のお話では、「できるだけ要望に沿えるよう調整していますが、日によっては運転ボランティアさんの確保ができないことがある」とのことです。

利用申込みがいっぱいで、ハート・カーが空いていないというのであれば、仕方がないとも思うのですが、ハート・カーが空いているのに、運転ボランティアさんがいないというのはチョット困ります。

出発当初は、下肢不自由の方や体幹の不自由な方などを想定していたものと聞いていますので、私たち視覚障害者も節度を持って利用する（タクシー替わりではない）必要があると思いますが、ぜひ、いろいろな方法で運転ボランティアさんを確保して、さらに利用しやすいハート・カーにしていきたいと思ひます。

（視覚障害の一会員）

# 投稿文芸コーナー！

長岡視覚障害者福祉協会の皆様からお寄せいただきました川柳をご紹介します。

文芸コーナーは、どなたでも投稿可能ですので、ぜひあなたの作品をお寄せください。

まだ若い 見えずに上がった 髪と腹

坂牧 文則

【寸評】

視覚障害者にとって、自分の顔かたちが確認できないことは、ある意味、幸せなのかもしれません。白髪になり、しわが増えても以前の姿のイメージが頭にあるので、自分はまだまだ若いと思ひ続けることができるんですね。

消し忘れ 怒られて夜点け忘れ

藤田 芳雄

【寸評】

光を感じない全盲の場合、夜、最後に電気を消し忘れて寝ると、朝になって家族に怒られてしまいます。逆に電気をつけ忘れてまっ暗なバスルームでシャワーの音だけがするのにも気持悪いものかもしれません。家族によく怒られます。

## 【編集後記】

本格的な冬将軍の訪れが感じられ、インフルエンザの流行が心配されます。



対策としては、外出後のうがい手洗いを日常的に習慣として行うこと。十分に栄養や睡眠をとり体力の抵抗力を高め、体調管理に努めること。室内を適切な湿度を保つこと。できるだけ人混みを避け外出時にマスクを着用。以上を守り感染予防をしましょう！

さて、昨年を象徴する流行語大賞はご存知のとおり「ワンチーム」。当身障連でも、ミュージックふれあい交流県大会において入賞こそ逃しましたが、出場者と応援団が、手作り横断幕を背に一致団結し笑顔と振り付けで審査員のハートをつかみ、みごと特別賞の応援賞に輝きました。

編集委員一同「ワンチーム」で今年も頑張りますので、よろしくお願ひいたします。（K・K記）